広報はいづか 75 号（平成 23 年８月）

キツネノカミソリ

キツネノカミソリが咲きました。ヒガンバナ・ナツズイセンとともに、ヒガンバナ属に分類されていて、花が咲く前に葉が枯れてしまうのが共通の特徴です。この点、同じヒガンバナ科でもスイセン属とは異なります。

ヒガンバナとナツズイセンは、どちらも古い時代に大陸から持ちこまれた帰化種と考えられ、種子ができないことも共通しています。これに対し、キツネノカミソリは自生種で、しっかりと結実します。

インターネットでキツネノカミソリを検索してみたら、名前の由来についての記述がいくつかありました。カミソリが早春の葉の形からというのは共通ですが、キツネのほうは、単に花の色が狐色という説のほかに、薄暗い林の中に突然咲く紅花を狐火にたとえて、というのもありました。

キツネノカミソリは、ハイヅカ湖周辺の随所に自生していますが、灰塚に引っ越してくる前に住んでいた十日市の借家でも、花を楽しんでいました。カタクリなどの移植に際し、選別で捨てられた球根を拾ってきて、借家の庭の片隅に植えたものです。カタクリの自生地には、たいていキツネノカミソリも生育しています。逆は真ならず、ですが。